

『新幹線大爆破』

1975年／日本／佐藤純弥監督作品

単純に面白く、何度見ても飽きない不思議な熱気

ひかり109号に爆弾が仕掛けられた。その爆弾は時速80キロ以下になると爆発する…警察と犯人との手に汗握る駆け引きを描いた日本映画の名作である。

ストーリーは単純明快。高倉健を中心とする犯人グループ、丹波哲郎を中心とする捜査本部、千葉真一が運転する新幹線の車内、宇津井健をチーフとする国鉄本部の4つの場面を交互に描写しながらスピーディーに進行していく。

次々に作戦を展開する犯人グループとこれに翻弄される捜査本部、ひかりに発生するトラブルとこれに対処する国鉄職員…、ひかりが走り出し、テーマ曲が流れたら、最後まで一気に見てしまうはずである。

他方、ひかりが東京駅のホームから発車する場面が手ブレしているとか、思わず早送りボタンを押したくなる新幹線の車内描写（乗客が皆ヤクザ風、あまりに安易でリアリティーを欠くパニック映像と枚挙にいとまがない）など、この作品には映画とは思えないお粗末な部分も相当に多い。



『新幹線大爆破』
発売元・販売元：
東映ビデオ株式会社
DVD 価格：税込4,725円

しかし、国鉄の協力が得られず東京駅での盗み撮りが余儀なくされたとか、この作品が封切り当時、日本では全く売れなかったのに、その後ヨーロッパに『Super Express 109』というタイトルで輸出されて大ヒットしたとか、『仁義なき闘い』シリーズなどに出演した怖い顔の俳優がたくさんいたなどといった当時のエピソードや、キアヌ・リーブスの『スピード』と同じ設定といったことをあわせて考えると、お粗末な部分も妙に納得できてしまう。

また、超高層ビルが少なかった新宿、現役だった蒸気機関車、まだ工事中の首都高速中央環状線、板橋区あたりの廃工場、今はほとんど見かけないデザインの自動車などなど、昭和40年代後半の日本が随所に描かれており感慨深い。

繰り返し見ては、つい毎回楽しんでしまう。なんとも言えない熱気を放ち続ける不思議な作品である。

(会員 石本 哲敏)

book

最近、おもしろかった本

『シャーロック・ホームズの失われた事件簿』

ケン・グリーンウォルド著 日暮雅通 訳 原書房 1890 円 (税込)

“シャーロッキアン” による魅力的な贋作

ふとした偶然で、57 期会員の先陣を切ってこのコーナーに掲載する機会を持つことができた。大変光栄に思う反面、編集部から参考にと頂いた過去の錚々たるラインナップを見て、若干、気が重い。

しかし、最近読んだのが、この本しかなかったのだから仕方がない。そして実際、私には、とても面白かったのである。

この本は、ようするに、数あるシャーロック・ホームズの贋作のひとつである。私と同じようにコナン・ドイルの世界に引き込まれ、そして、私と違って、その世界を再構成する意欲と才能に恵まれたシャーロッキアン（ホームズマニア）のひとりが、ホームズの世界に加えた 13 の冒険の物語がこの本に収まっている。私が初めて原作を手にしたのは、確か、高校生の頃だったが、以来、ホームズとワトソンのコンビに魅せられ、原作をあっという間に読了し、邦訳が出

版されるたびに贋作に手を出し続けて、今日に至っている。

ホームズの物語は、正・贋を問わず、きまって、依頼人がベイカー街 221B の部屋の扉をノックして始まる。依頼人が語る事件の奇妙なプロットに関心を持ったホームズは、相棒のワトスンとともに、ロンドンの霧の中へ捜査に乗り出す。今日もまた、「獲物が飛び出した」のだ。

以上、ほとんど表題の本の紹介にはなっていなかったけれども、この稿を終わる。新人がなにを言っている、とお叱りを受けそうだが、仕事の合間に、ふと気を抜けて、活力を与えてくれる物語に巡り会ったことは幸せである。

しかし、今日の私は、目の前に散らばっている書類の束に目を通すまで、ベイカー街 221B の扉を開くことは出来そうにない。

(会員 斎藤 和将)

